

けんぽく

第15号[平成27年2月号]



平成27年2月27日発行
「食」と「ふるさと」
新生運動ニュース

編集・発行 福島県県北農林事務所

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。

◆おいしい料理があんぽ柿産地の復興を後押し！ 「あんぽ柿料理コンクール」が開催されました！

平成27年2月16日（月）、伊達市保原町のスカイパレスで、「あんぽ柿料理コンクール」が開催されました。

これは、伝統ある伊達地域のあんぽ柿の産地再生と更なる振興発展を図る目的で、JA伊達みらいの主催で開催したものです。

コンクールでは、JA伊達みらい組合員等から83点もの応募があり、色とりどりのあんぽ柿料理が所狭しと並べられました。

審査員には、キューピー3分クッキングで有名な料理研究家の小川聖子先生を審査委員長として、東洋大学の道畑美希先生、栄養と料理の監物南美編集長、科学ジャーナリストの松永和紀先生など、一流の有識者が招かれました。

審査は、県、市・町、JA等の関係者を含む合計15名で行われ、審査基準として、おいしさ、作りやすさ、完成度、オリジナリティ等の総合的判断に加え、美しさや伝統的な味わいの表現力、地域・人・食との関わり等も重要視されました。

入賞として、グランプリ（特賞）2点、優秀賞6点、優良賞2点の合計10点の料理が選ばれました。グランプリの福島県知事賞には、佐藤幸子さん（伊達市）の「あんぽチョコ」、JA福島五連会長賞には、引地雅子さん（伊達市）の「あん菜チーズ巻き揚げ」が選ばれました。

また、長年あんぽ柿料理を研究してきた山舟生羽山生活改善グループによる「あんぽ柿懐石風料理」が、参考展示されました。

表彰式では、伊達みらい農業協同組合代表理事組合長 安彦慶一氏から、あんぽ柿料理を紹介して消費拡大



コンクールの審査の様子

につなげるとともに、産地復興にもつなげたいとの御挨拶がありました。

また、小川聖子審査委員長からは、伝承料理や斬新なアイデアにあふれるオリジナル料理に賞賛が贈られました。

JA伊達みらいでは、今後、今回の料理コンクールに出品された料理のレシピを、一般消費者向けに広く紹介する予定であり、あんぽ柿の一層の消費拡大につながると期待しています。



「あんぽチョコ」
(グランプリ 福島県知事賞)



「あん菜チーズ巻き揚げ」
(グランプリ JA福島五連会長賞)



参考展示「あんぽ柿懐石風料理」

(伊達農業普及所)

◆あだち地域農業の発展を目指して！

「あだち地域農業振興大会」が開催されました！

平成27年2月7日（土）、本宮市「サンライズもとみや」において、あだち地域農業振興協議会（二本松市、本宮市、大玉村、JAみちのく安達）主催により「第17回あだち地域農業振興大会」が開催されました。

当日は、農業者等190名の参加があり、講演会や体験事例発表、大会スローガンの確認が行われました。

講演会では、株式会社食糧問題研究所の月刊食糧ジャーナルの編集長 伊藤博司氏から、米の販売情勢について、また、福島大学経済経営学類 教授 小山良太氏からは、原子力災害からの地域農業振興に向けた取組に関する講話があり、参加者は熱心に聞き入っていました。

続いて、JAみちのく安達 女性部白沢支部 武田満里子さんから体験事例の発表があり、また、同営農経済常務の遠藤明男氏からは、飼料用米の作付推進に関する説明がありました。

最後に、参加者全員で、米の生産拡大や、担い手や集落営農の営農体制確立など、安達地域農業の発展に関する4つの大会スローガンを確認し閉会しました。

今回の振興大会は、安達地域の農業者、関係機関・団体の連携を強め、今後の安達地域農業の振興につながる一日となりました。



「あだち地域農業振興大会」の講演の様子

(安達農業普及所)

◆もっと知ろう地元の魅力！

「県北地方農家民宿セミナー」を開催！

都市と農村との交流等の受け入れ先として、農家民宿が大きな役割を果たしています。しかし、東日本大震災以降、農家民宿を含めグリーン・ツーリズムの状況は大きく変化しており、県北地方の更なる誘客につながる取組が重要となっています。

平成27年2月20日（金）、本宮市白沢公民館研修室において、当県北農林事務所の主催により「平成26年度県北地方農家民宿セミナー」を開催しました。当日は、農家民宿の既存開設農家、新たに開設を希望する農家、農家民宿に宿泊していた大学生など、約50名の方に参加

いただきました。

セミナーでは、まず、茨城大学名誉教授 中島紀一氏より、「県北地方のグリーン・ツーリズムの現状とこれから目指すべき方向」、また、白沢ふれあい文化ホール専門学芸員 斎藤由美子氏より、「県北の魅力再発見 ～『しらかわ地元学』の編纂を行って～』と題して、それぞれ御講演いただきました。両講師より、グリーン・ツーリズムにおける県北の魅力等について、様々な事例を交えてお話いただき、参加者は、それぞれ自分の地元の魅力と比較しながら、講演に聞き入っていました。

その後、当県北農林事務所企画部 主査 松田英明の司会により、地元の魅力を再発見するためのワークショップを行いました。参加者は、今まで何気なく見ていた史跡など、自分の住んでいる地域の魅力を再認識しながら、手作りの地図作製に取り組んでいました。



中島紀一氏の講演



斎藤由美子氏の講演



手作りの地図を作製中！

(企画部)

◆「認定農業者等育成セミナー」を開催！

平成 27 年 2 月 16 日（月）、福島市の J A 新ふくしま北信支店において、当県北農林事務所の主催により、「平成 26 年度認定農業者等育成セミナー」を開催しました。

このセミナーは、認定農業者、新規就農者等の経営管理能力の向上を図ることを目的に開催したもので、県北管内の農業者 26 名が参加しました。

セミナーは、農業税制講座、健康講座、農業労務管理講座の 3 部構成で、第 1 部では税理士 深瀬善太氏による「農業所得確定申告に向けてのポイント」、第 2 部では福島大学特任准教授 石井秀樹氏による「放射能汚染から農と地域の再生を」、第 3 部では経営労務コンサルタント 丹治勸氏による「農業労務管理の基本と注意点」について、それぞれ講演いただきました。

参加した農業者からは、減価償却の方法を始め、多岐にわたった質問が出され、他の農業者も真剣な面持ちで受講していました。

今後は、認定農業者がこのセミナーを通じて、農業経営に関する様々な課題に対応できるスキルを身につけていくことが期待されます。



認定農業者の受講風景



放射能についての講義の様子

(農業振興普及部)



◆「ふくしま県産木材利用県北地方連絡会議」を開催！

平成 27 年 2 月 12 日（木）、国見町の観月台文化センター大研修室で、当県北農林事務所が事務局を担当している「ふくしま県産木材利用県北地方連絡会議」を開催し、16 名が参加しました。

この連絡会議は、国、県の出先機関と市町村の公共工事実施部局で構成され、福島県産木材の利用拡大を推進するために、毎年開催しています。

今年は、木材使用計画や木材年間使用実績等の情報交換をするとともに、木材をふんだんに活用して建築している国見町新庁舎を見学し、公共施設における県産木材の活用について、発注者の国見町担当者や設計事業者と意見交換をしました。建築基準法における耐火性能など様々な制約をクリアするための工夫や、構造材における県産木材の利用率、机や椅子などの備品における国産木材の活用などについて活発な討論が行われました。



連絡会議の様子



現地研修(国見町新庁舎建物外部)



現地研修(国見町新庁舎建物内部)

(森林林業部)

◆「土地改良区役員・職員、市町村担当職員研修会」が開催されました！

農業就業人口の急激な減少が見込まれるなか、農地の貸し借り面積は増えることが想定されます。このため農用地利用集積のノウハウをいかし、ハードとソフトが一体となったほ場の整備を一層進める必要があります。職員の能力向上が求められます。

平成27年1月30日（金）、福島県土地改良会館4階大会議室で、福島県土地改良事業団体連合会県北支部が主催となり、県北地方管内の土地改良区役員、職員及び市町村担当職員を対象に研修会が開催され、120名が参加しました。

来賓の当県北農林事務所 所長 甲斐敬市郎の挨拶の後、同農村整備部長 長澤幸弘より、「県北地方における農業農村整備事業の展開方向について」と題して講演が行われました。

その後、研修として、同農地計画課長 後藤裕一による「福島再生加速化交付金（農業水利施設等保全再生事業）について」、農村整備課長 田代孝之より、「農業（土地改良）の昔話」が行われました。

参加者は、それぞれの講演に熱心に耳を傾けていました。



来賓挨拶
「一層の研鑽をお願いします」



講演の様子「担い手が営農しやすい基盤整備を進めていきます」

（農村整備部）



◆発酵食品づくりワークショップ「フルーツビネガー」講習会が開催されました！

ふくしま発酵文化研究会（事務局：一般社団法人福島市観光コンベンション協会）では、平成27年2月13日（金）にイタリアンコック／フードコーディネーターの金丸知弘氏を講師に招いて、果物と氷砂糖、食用酢と一緒に瓶詰めした「フルーツビネガー」づくりのワークショップを開催しました。

会場となった福島市飯坂町の飯坂学習センターには、多くの果物と香辛料が用意され、参加者はオリジナルの組み合わせによる彩り豊かなフルーツビネガーの作り方を学ぶことができました。

併せて、品質保持としてジャムなどにも応用できるガラス瓶の脱気や殺菌を確実にを行うための実践的な研修も行われました。

金丸氏からは、1つの商品だけを作って販売すると消費者の選択肢がなく、結果として商品が売れなくなる等の説明があり、果物の鮮やかな色彩をいかしたガラス瓶を並べることができるフルーツビネガーは、たくさんの種類を作ってカラフルな商品展示を行うことで、消費者への訴求力を高めることができるとのアドバイスがありました。

なお、来る6月20日（土）には、「ふくしまdestinationキャンペーン」に併せて、福島市で「全国発酵食品サミット」が開催されることとなっています。



参加者が会場に入りきれないほど大盛況



金丸氏によるフルーツビネガーづくりの実演

（企画部）

一般社団法人 福島市公設地方卸売市場協会

「世界一安全・安心な市場づくり」こそが私たちの使命

【組織紹介】

一般社団法人福島市公設地方卸売市場協会は、市場運営の合理化と円滑化を図るため設立された組織で、市場内の各卸、仲卸、小売組合、関連店舗、その他の市場関係機関、福島市などの代表者等(41団体)で構成されています。主な事業としては、場内の衛生保全、消費者対策、福利厚生、活性化対策事業等々の業務を行っております。また、本市場の公設地方卸売市場への転換を機に、平成26年4月1日より、福島市公設地方卸売市場の指定管理者として福島市と協定を結び、市場の管理・運営も行っています。

当協会では、地方市場への転換に伴う規制緩和と自らの責任で市場を管理することで、「市民に親しまれる市場」に変えていくことこそ市場活性化の重要な視点であると考え、『世界一安全・安心な市場づくり』を日々心掛けています。

そのためにも、基準に基づく安全・安心な品目の確保に万全を期し、二重・三重にチェックを行い、世界一安全・安心な商品を提供いたします。産地で一生懸命汗を流し働いている方々の思いを伝えます。食べること、お花を飾っていただくことが本県復興に欠かせないことを伝えていきます。

当協会は、これからも生鮮食料品、生花等の安定供給を通して本県の復興再生に貢献してまいります。

【特にPRしたいこと】

「市民に親しまれる市場」を目指して、下記のイベントを実施いたします。

1. 市場パネル展(常設)
平成27年4月1日(水)～ 平日の午前10時～午後4時
2. 市場の土曜感謝市
第1回 平成27年4月18日(土) 午前11時から午後1時
第2回 平成27年5月16日(土) 同上
第3回 平成27年6月20日(土) 同上
3. わくわく市場まつり
平成27年10月25日(日) 午前9時～午後1時
4. 出前講座
「料理教室」「フラワーアレンジメント教室」
5. 市場見学会

※出前講座・市場見学会は事前申込みが必要です。お気軽にお問い合わせください



出前講座 料理教室(こむこむ館)



親子市場見学会



平成26年度わくわく市場まつり(青果)



平成26年度わくわく市場まつり(水産)



皆様からの御意見・御要望など 様々な情報をお待ちしております。

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-535-0382

FAX 024-536-9590

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

